

# 日経メディカル

10  
OCTOBER  
2018

特集

## 波紋広がる 東京医大の 入試不正事件

特集

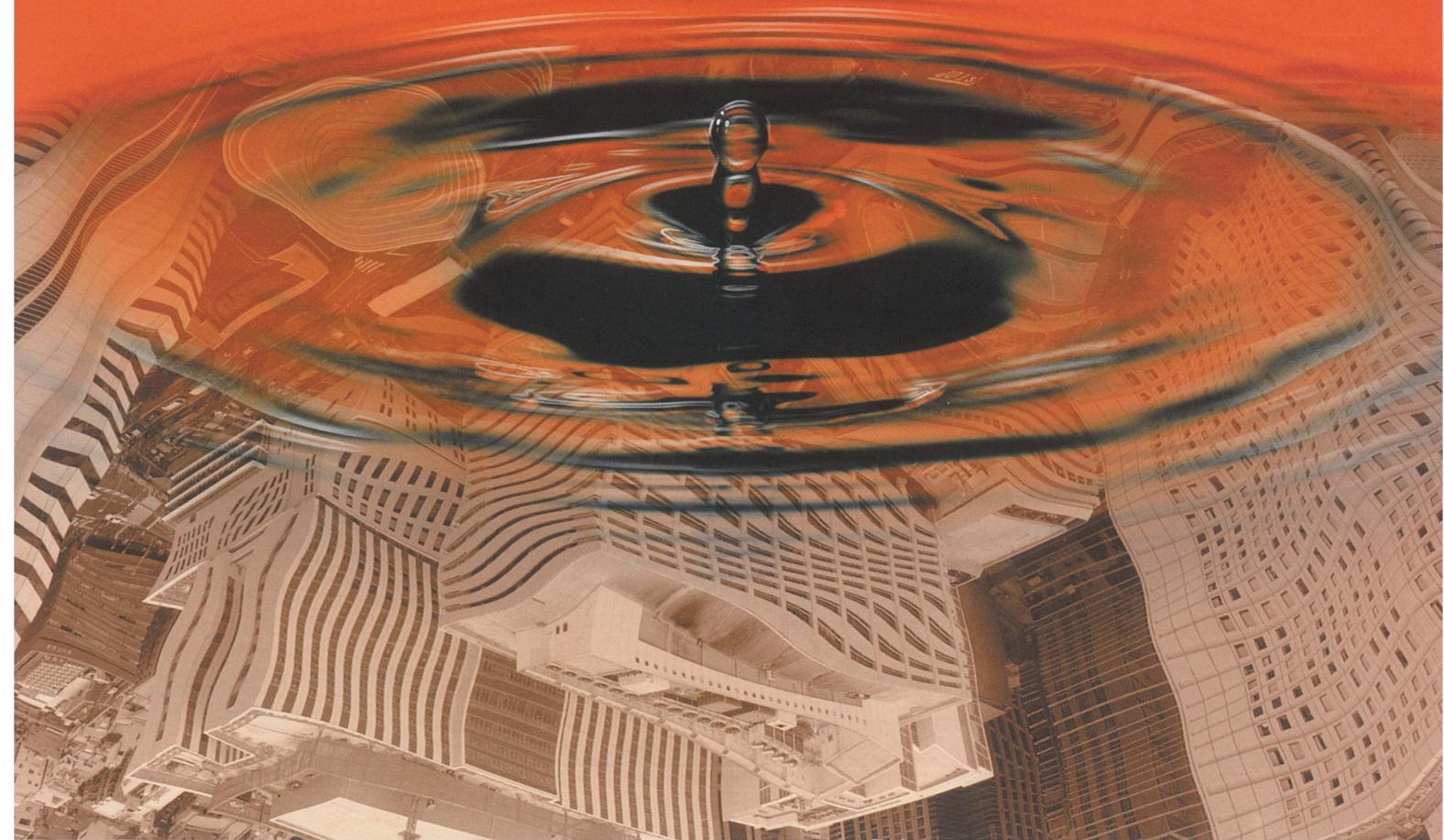
## Unmet Medical Needs への挑戦 2018-2019

REPORT

高血圧ガイドライン2019の骨子明らかに  
その便秘薬処方、間違っていませんか  
見せかけの薬剤抵抗性てんかんとは  
病医院ホームページが広告規制対象に  
甲状腺検査で「治せる認知症」を探せ

ニュース追跡

外科医わいせつ容疑事件の公判が再開



**私** の母は、結婚と子育てで医師としてのキャリアの全てを失いました。活躍する人の背後には、家事や介護などを行う人がいます。東京医大の問題も根本は同じ。女性医師の7割は配偶者が医師。夫も仕事が激務で、経済的なことだけを言えば働く必要もありません。活躍する女性がいるといつても、影に親がいることがほとんど。誰に無報酬労働を押しつけたか、という話にすぎないのでしょう。

東京医大の経営判断を、私は賛成しませんが、同時に、「なぜ回らないか」という議論をせずに、「女性が働けないのはおかしい」と東京医大を責めるのはいかがなものかと思います。今回、入試不正について、医師の65%が「女子の減点を理解できる」と回答したアンケートが話題になりました。回答した医師たちは、問題を肯定したいのではなく、問題に処方箋がないことが分かっているからそのよう答えたのではないかでしょうか。

私は母のようにキャリアを諦める女性医師をこれ以上生み出さがないよう、2005年に働きやすい病院を認証する事業を手がけるNPO、イージェイネットを立ちあげました。当初は女性の働きやすい病院を認証する制度でしたが、すぐに何人かの病院長から、「女性医師だけを優遇することはあり得ない」と指摘され、今は全

ての職種が働きやすい医療機関を認証する制度へと作り替えました。

認証を受けた医療機関では、現在、院内保育所はもちろん、24時間保育や病児保育を持つところもあります。また、複数で1人の患者さんを診たり、子育て中の医師の短時間シフトの整備なども進んでいます。

ただ、これらを整備している病院の経営者から、「経営上、限界にきていて」という声が上がってきていたほか、ここにきて、そんな働きやすさに“ただ乗り”する医師もいるという話も聞こえるようになりました。働きながら仕事ができることのみに惹かれてくる女性医師は、「子供が一番大事で、17時近くなったら患者を診ない」、「他の医師が困っていても助けない」というスタンスになってしまいます。

働きやすい病院、というと給与・休暇に話が偏りがちですが、そのようなことを求める医師ばかり集まると、病院のパフォーマンスは落ちてしまいます。例えば、医師として肉体労働はできなくても、データをまとめて皆が発表しやすいようにするなど、直なしでも医療に貢献できることはあります。今後は私たちも、「働きやすい」病院の認証から、やる気のある医師が「働きたくなる」病院の認証に切り替えていこうと思っています。

(聞き手：山崎 大作)

## 瀧野 敏子氏

イージェイネット代表理事



たきのとしこ氏○イージェイネット代表理事。大阪市立大学医学部卒。東京女子医科大学、淀川キリスト教病院を経て、2004年にラ・クオール本町クリニックを、2005年にイージェイネットを設立。

▶あわせて読みたい  
イージェイネット設立の背景  
<https://nkbp.jp/2NMlPVn>



「どんな理由があっても、女性差別を肯定する医療現場が悪い」。今回の問題を受け、そのような声も多く聞く。だが、差別をただ撤廃するだけで医療現場はよくなるのか。